

# 「長野県野球協会」設立の理由



野球の未来へ!  
For children

令和4年(2022年)4月1日付で設立した「長野県野球協会」の歩みが、3年目を迎えます。他のスポーツでは一般的な競技団体の統括組織が、なぜ野球界には存在しなかったのか。新たな設立は、なぜ必要だったのか。この機会に、ご説明いたします。

野球が米国から日本に伝來したのは明治5年(1872年)のことと、150年が過ぎました。この間、魅力的な新球技は飛躍的な発展を遂げ、国内最大の人気スポーツとして君臨しました。その一方で野球界は横の連携が希薄で各団体の林立状態が固定化し、アマチュア野球とプロ野球の対立も長く続きました。

1990年代に起きたサッカーブーム、さらにスポーツの多様化と少子化のあおりで野球人口は減少し、子どもたちの深刻な野球離れに直面しました。危機感を募らせた信州の野球人たちは平成28年(2016年)に、小中高校生世代の普及・振興をめざして「長野県青少年野球協議会」を設立。その後のプロ・アマ交流の緩和策がひとつの契機となり、青少年野球協議会を発展的に解消して一昨年4月、プロを含む15野球団体の大同団結で設立したのが「長野県野球協会」です。

設立記念イベント「第1回長野県知事杯争奪プロ・アマドリームトーナメント」の際に催したセレモニーには、小中高校生の男女、大学生、社会人、プロのBCリーグ、シニア層の計180選手が参加。各年代の代表9選手が野球の未来に向けて一丸となって努力していくメッセージをリレー形式で発表し、結びに全員

で「心をひとつに。前へ!前へ!」と力強く宣言しました。6月には2つ目の設立記念イベントとして前年秋の県高校大会優勝校と松本大学が対戦する「高校生対大学生交流試合」も始まり、第2回の昨年は松本大学が松商学園を3-0で破りました。

組織図にある9つの専門委員会が役割を担い、県土の広さを背景に設置した12の地区野球協会では、それぞれの地区に見合った普及イベント活動に力を注ぎ、じわじわと成果を上げてきています(26、27ページ参照)。

一連の取り組みは、いわば「ピンチはチャンス」と捉えた新たなチャレンジです。放っておいても多くの子どもたちが白球やバットを握ってくれた往年の面影は既に見当たりません。野球人気の栄光にあぐらをかき、普及・振興活動に手をこまねいていた過去の野球界とは決別します。そして、「子どもたちに野球を選んでもらえる環境づくり」を主眼に、長野県野球協会は野球の未来に向けて歩み続けてまいります。



プロ・アマトーナメント関連イベントの「遊ボーラー」でバットを振る子ども =2023年3月26日、長野オリンピックスタジアム

## 令和5年度専門委員会活動計画

### 医科学

- メディカルチェックモデル事業(下伊那地区)  
肩肘検診、障害予防及び栄養サポート研修会開催
- コンディショニングチェック研修会  
(東信地区)

### 青少年野球育成特別

- 各団体登録者集約
- 学童野球の組織化
- 地区野球協会の統括
- 高校 vs 大学交流戦の開催
- 遊ボーラー地区普及活動推進

### 指導者

- 指導者ライセンス取得事業
- 指導者研修会の開催  
(県及び地区協会事業支援)
- 指導者有資格者の登録

### 女子野球

- 女子野球環境整備のための連絡調整
- NPBガールズトーナメントに向けた選手募集と大会参加

### 技術

- 投球マニュアル普及事業
- オンラインを活用した技術習得モデル作成及び指導者討論会の開催
- 資格取得に向けた指導者委員会との連携

### 財務・就職支援

- 協会活動への協賛企業確保活動
- HPを利用した個人会員の募集活動
- NPB関係の協会活動への協力依頼

### プロ・アマ連携

- 信濃GSと大学・社会人によるプロ・アマドリームトーナメントの開催
- プロ・アマによる青少年野球への支援・交流

### 審判・記録

- BFJ公認ライセンス試験開催
- 技術講習会の開催
- 加盟団体の審判部及び記録部の連携推進

### 広報

- 協会HPの管理運営
- 各種メディアとの連携強化
- 協会活性化と底辺拡大に向けた情報発信



2大会連続の対戦となった松商学園と松本大学による高校生と大学生交流試合での記念写真=2023年6月15日、セキスハイム松本スタジアム

## 長野県野球協会組織図

